

# Daily Market Report

## ナフサ C&F JAPAN 評価値(ドル/MT)

### C&F JAPAN 評価値

5月後半着	1,077.75	( 33.25)
6月前半着	1,073.25	( 33.25)
6月後半着	1,070.25	( 33.25)
7月前半着	1,068.25	( 33.25)
7月後半着	1,066.50	( 33.25)

### OPEN SPEC NAPHTHA スポット取引プレミアム評価

(千葉到着ベース)	COUNT30日前	COUNT45日前
5月前半着	+8.50	+4.75
5月後半着	+6.50	+4.00
6月前半着	+3.88	+2.00
6月後半着	+2.50	+0.88

### 算出時の原油価格(ドル/bbl)

MONTH	MAY
WTI	113.02
BRENT	126.67

本日午前 10 時時点での理論上の計算値、( )内は前営業日の評価値との比較

### [マーケットコメント]

週末 8 日のナフサ C&F JAPAN は 1050.25 ドルと大幅続伸、クラックスブレッドは続伸。アジアのファンダメンタルズは期近玉を中心にタイトな状況にあるが、ナフサ価格がリーマンショック以来の高値を更新するなか、クラッカーの-margin が悪化していることから、高値に対する警戒感も強まっている。震災による景気腰折れへの懸念もあり、次第にタイトな状況は薄れてくるとみられていた。しかし、5 月後半到着玉のスポット商戦が始まり、高値で成約されたことや、欧州からの裁定玉の流入が見られないことから、引き続き需要に対して供給が追いついていない状態にあるとの見方が強まった。また、震災後、日本のクラッカーも稼働を開始していることから、スポット需要が増えることも見込まれる。タイト感が薄れるとの見方が後退し、一方で買い手が積極的な動きを見せたことで、クラックスブレッドは続伸した。今週のアジア市場は、需給タイト感を背景に買い先行の展開が見込まれる。ただし、原油価格の上昇により高値警戒感も強く、上値は抑えられるだろう。

## ナフサ MOF / 国産ナフサ価格予想値および評価値

	ナフサMOF価格				国産ナフサ価格	
	ドル/MT	ドル/円	円/KL	速・確報値/(前日比) 円/KL	予想値/評価値 円/KL	速報値/(前日比) 円/KL
10-Oct	700.07	83.42	40,587	40,712		
10-Nov	747.36	81.39	42,273	42,222		
10-Dec	796.85	83.61	46,305	46,634		
10-4Q			43,079	43,101	45,100	45,100
11-Jan	857.45	82.91	49,410	49,202		
11-Feb	882.61	82.33	50,505	50,204		
11-Mar	909.37	82.49	52,133	(±0)		
11-1Q			50,513		52,500	(±0)
11-Apr	984.49	82.45	56,413	( 110)		
11-May	1,050.86	84.97	62,058	( 994)		
11-Jun	1,078.64	84.98	63,706	( 1,777)		
11-2Q			60,725		62,700	( 900)
11-Jul	1,077.11	85.00	63,628	( 1,817)		
11-Aug	1,075.32	85.01	63,535	( 1,816)		
11-Sep	1,073.82	85.03	63,461	( 1,815)		
11-3Q			63,541		65,500	( 1,800)
11-Oct	1,072.38	85.06	63,395	( 1,814)		
11-Nov	1,071.10	85.09	63,339	( 1,811)		
11-Dec	1,069.83	85.12	63,288	( 1,810)		
11-4Q			63,341		65,300	( 1,800)
12-Jan	1,068.35	85.16	63,230	( 1,810)		
12-Feb	1,066.42	85.20	63,150	( 1,809)		
12-Mar	1,063.98	85.25	63,041	( 1,809)		
12-1Q			63,140		65,100	( 1,800)

予想値は太字での表記、MOF(国産)価格の評価値は予想値ではなく本日午前 10 時時点での理論上の計算値

(前日比)は前営業日の予想値および評価値との比較、換算比重は 0.695、為替レートは実勢為替相場に基づいた通関レートおよび為替先物マーケットから算出

### [ナフサ MOF/国産ナフサ価格予想値および評価値コメント、マーケットコメント]

本日午前 10 時時点の 11 年 1Q 国産ナフサ予想値は 5 万 2500 円と予想値に変更はない。為替通関レートはやや円高だが、本日のナフサ C&F JAPAN 評価値の上昇想定幅が大幅に上回ることから、MOF 評価値は大きく値を上げることが見込まれる。11 年 2Q 国産ナフサは前営業日比 900 円高の 6 万 2700 円の評価。

11年1Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



11年2Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



太線は弊社予想値および評価値の推移、細線はナフサ C&F JAPAN に為替および比重(0.695)を乗じた数値の推移

# Daily Market Report

## 原油・石油製品相場(前営業日)

### Crude Oil(ドル/bbl)

		close	chg
NYMEX / WTI	MAY	112.79	( 2.49)
	JUN	113.37	( 2.49)
ICE / BRENT	MAY	126.65	( 3.98)
	JUN	126.12	( 3.86)

### Oil Products(セント/gal)(ドル/MT)

		close	chg
NYMEX / RBOB	MAY	326.07	( 7.42)
NYMEX / Heating Oil	MAY	331.97	( 11.37)
ICE / Gas OIL	APR	1,053.00	( 28.50)

### [マーケットコメント]

週末8日の原油相場は、ロンドン市場、NY市場ともに大幅続伸。リビアの原油供給懸念やドル安を背景に買いが先行した。WTI期近5月限は一時113ドル台へと上昇し、高値からは上げ幅縮小したものの、期近終値ベースとしても2008年9月22日以来の高値で引けている。

リビアからの原油輸出再開への期待が後退した。カダフィ政権側の石油施設への攻撃により、供給崩壊への懸念が高まった。激化する武力衝突に早期解決の見通しが立たず、同国からの原油供給が長期に亘り滞るとの見方から、原油買いが優勢となった。引き続き、中東産油国へ飛び火するとの不安も煽っており、北アフリカ・中東情勢不安が相場を大きく押し上げている。これに加え、ドルが対ユーロで下落したことも支援材料となった。欧州の追加利上げ観測からユーロ買いが優勢のなか、11会計年度予算の取り扱いをめぐる米連邦政府が閉鎖に追い込まれるとの見方がドルを圧迫、ドルは対ユーロで1年3ヶ月ぶりの安値となった。ドル安を背景にドル建て取引の原油相場に割安感が意識され、原油買いに繋がった。米欧の金利差拡大に着目したユーロ買いが優勢となる可能性が高く、買い方の安心感に繋がっている模様。また、週末を前にしたポジション整理が進むなか、直近高値更新により売り方の踏みが誘発された可能性が高く、上げ足を速めたとみられる。

CFTC発表によると、5日時点のファンドのポジションは、WTIは25万2151枚の買い越しと、前週から買い越し幅を2743枚縮小させた。特段目立った変化は見られていない。上昇過程のなか、若干新規にショートポジションを増やしている。石油製品は、RBOBが6万6202枚の買い越しと、前週から買い越し幅を1408枚拡大。小幅に新規買い建てを進める一方で、買戻しを進めた。ヒーティングオイルは、3万1805枚の買い越しと、前週から買い越し幅を1354枚拡大。こちらは新規ロングを増やす動き。なお、天然ガスは20万0370枚の売り越しと前週から売り越し幅643枚縮小。

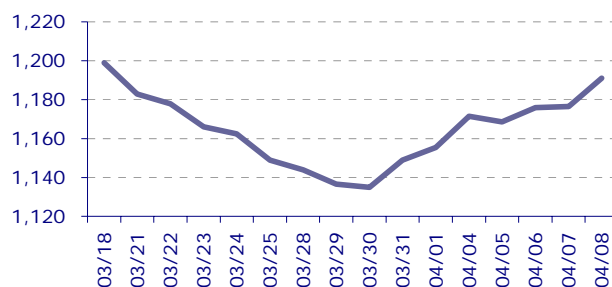
## トピックス

### 「前週のベンゼンマーケットレビュー」

前週のアジアのベンゼンマーケットは、FOB KOREA1100ドル台後半へと値を上げた。他の芳香族は、トルエンは前々週末の戻り歩調を継続し、節目の1100ドル台へと上昇している。一方のパラキシレン(PX)は、ベンゼンやトルエンとは異なり、軟調地合い継続から1500ドル台へと値を崩した。引き続き川下の高純度テレフタル酸(PTA)からの引き合いが低下しており、長期に及んだ上昇基調から一転して下落基調を強めている。電力使用量が増えていることを懸念し中国政府が電力供給を制限していることで、さらに川下のポリエステル需要が減少していることに加え、震災の影響から日本の需要不振も影響している模様。

アジアのベンゼン市況は、3月下旬に1130ドル台まで下落したが、その後は底打ちから切り返す動きとなっている。川下の主要誘導品であるスチレンモノマー(SM)が急速に値を戻している。中国のEPS需要の低下から北東アジアのSM需給バランスは供給過剰の状態にあったが、引き合い旺盛なインドのSM価格に割高感があることで、インドへの玉の流出が進んでいる。行き場を失いつつあった玉の行き先が見つかったことで、シンガポールのエルパ・イースタン(シェルとBASFの合弁)が、生産能力55万トン/年のSM/POプラントについて不可抗力を宣言したことも、ここにきて買い材料視された格好。SMサイドからの押し上げに加え、川上の原油相場が連日の高値更新となっていることにも牽引されたとみられる。川上および川下で買い材料が見られたことで上昇しているが、本格的に上昇基調へと転換したと判断するのは早計だろう。定期メンテナンス入りする川下誘導品プラントもあり、ベンゼンに対する引き合いが急増することは想定し難い。また、足元のベンゼン需給自体にもタイト感はなく、再び上値が重くなる可能性がある点は注意が必要である。なお、対ナフサとのスプレッドは、150ドルを割り込む水準まで縮小している。ナフサとの相対比較においては割安感があるものの、上げ渋っていることから、ファンダメンタルズはそれほど強くはないことが窺える。

Benzene FOB KOREA(ドル/MT)



### 「2月のエチレン換算輸出、前年同月比9.6%減 = 経済産業省」

経済産業省製造産業局化学課は8日、2月のエチレン換算(エチレンおよびエチレン誘導品のエチレン換算量)輸出入を発表した。同統計によると、2月のエチレン換算輸出量は前月比9.2%減の19万1800トンとなった。前年同月比では9.6%減と、3ヶ月連続のマイナスとなった。一方輸入量は前月比20.8%減の3万5800トン。前年同月に比べると2.9%上回っている。13ヶ月連続のプラス。

(単位:トン)

	数量	前月比		前年同月比		輸出入比率
輸出	191,800	19,500	9.2%	20,300	9.6%	31.7%
輸入	35,800	9,400	20.8%	1,000	2.9%	8.0%

(出所:経済産業省)

# Daily Market Report

## 「導電性カーボンブラック値上げへ = 電気化学工業」

電気化学工業は7日、アセチレンブラックの価格について値上げを決定し、ユーザーとの交渉に入ることを明らかにした。値上げ幅はプラス50円/kg以上で、実施時期は4月16日出荷分より。製造およびその他諸経費について徹底したコストダウンに努めるも、原料価格の上昇による製造コスト増は自助努力の限界を超える状況にあり、安定供給ならびに事業維持継続のためにも値上げを実施せざるを得ないと判断した。

## 「鹿島第2エチレンプラントは5月20日頃の再開見通し = 三菱化学」

三菱化学は8日、同社関係事業所における現時点までの状況について明らかにした。鹿島事業所においては、現在までにボイラーを含む自家発電設備が一部復旧したことで、地震発生後停止しているエチレン等の製造設備についての詳細点検を実施しており、必要に応じて補修をとり進めている。津波により被害を受けた港湾施設を含む入出荷設備も、急ピッチで補修を進めている。なお、再開見込みのスケジュールについては、鹿島第2エチレンプラントは5月20日頃の再開を目指しているという。また、PEやPPの一部の系列については、第2エチレンプラントの稼働に合わせて再開する見込み。鹿島第1エチレンプラントは、今年度計画していた定修(5月14日から)終了後の6月27日に再開を予定している。PE、PPの残りの系列およびBPA、EO等のその他誘導品については、第1エチレンプラントの稼働に合わせて順次再開する見通し。なお、筑波事業所については、11日をもって全ての製造設備の稼働を再開する予定。

## 「シンガポール石油化学プラントの建設に韓国輸出銀行が6億2000万ドルを提供」

韓国輸出入銀行は8日、SKグループが25億ドルを投じて建設するシンガポールの石油化学プラントおよびその運営事業に対し、プロジェクトファイナンス(PF)方式で6億2000万ドルを融資することを明らかにした。この事業はジュロン石油化学団地内の55万平方メートルの敷地に、450万トン/年の石油化学製品プラントを建設し運営するもの。SKグループは、シンガポールの投資開発公社(EDBI)などと共同で事業を推進する予定。同銀行は高付加価値の海外投資開発事業を遂行するため、競争力のある中長期金融を提供し、国際的な商業金融の手配を積極的に拡大していく計画で、韓国企業の海外へのプロジェクトへの積極的な事業投資を期待している。

## 「プロジェクトを進めないで2015年までにエチレンが不足」

台湾經濟部工業局によると、台湾中西部の彰化県での国光ナフサクラッカープロジェクトが打ち切られると、2015年までに台湾のエチレンは不足するという。台湾国営石油(CPC)の高雄にあるNo.5ナフサクラッカーが閉鎖する予定であるため、経済成長に歩調を合わせ石油化学製品需要も増加する見通しであるなか、エチレン不足に陥らないためにも必要な計画であるという。台湾でのエチレン生産量は、CPCのNo.5クラッカーからの50万トン/年を含むと300万トン/年に達し、同国のエチレン需要の97%を自国生産で賄えることになる。本プロジェクトが立ち上げられた当時、シンガポールでも石油化学産業へのプロジェクトが推進し始められ、シンガポールの石油化学パークは米国やオランダからの投資を受けて、今日では300万トン/年以上のエチレンを生産するに至っており、ライバル視する台湾の石油化学産業の脅威となっている。これ以上の遅れを取らないためにも、また4年から5年の間にエチレン不足に陥らないためにも、早期にプロジェクトを再開する必要がある。